

みろく

第3世代
Third Generation

地域とともに生きることを忘れずに

変化することが
進化です

質素につつましく
生きなさい

OBに敬意を

神原眞人



社風と家風を考える

常石グループには、どのような社風（理念・思考・行動信条など）があるのでしょうか。またオーナー家として、神原家にはどのような家風があるのでしょうか。第3世代の4人にお話を聞き、第4世代の方々にはアンケートで回答いただきました。

どんな企業でもいえることですが、そこに所属している、あるいは所属していた人間（当事者）に「企業風土を語れ」というには無理があるよう気がします。当事者は必死なのです。社風はああだ、雰囲気がどうの、なんて考へている暇はないのです。

ここにグループの中心である造船は国際的な景気動向に敏感であり、そのうねりに翻弄されることが宿命ともいえる業種です。造船景気の良い時は、活発な営業活動とそれに呼応する製造現場の活気がありまます。逆に景気が冷え込めば、わずかな需要の争奪戦が繰り広げられ、受注につながれば製造現場は燃え、それがなければ現場は雌伏して次の受注のために技術の蓄積に力を注ぎます。

つまり、状況や環境によつて組織の雰囲気（社風）は大きく変化しなければならないのです。変化もなく十年一日のような雰囲気の会社や組織は進化していないのではないか、というのが私の考へです。

ただ一つ、初代の言葉として心に銘じているのは「小さな利益でもコツコツと拾い集めれば、やがて大きな利益につながる」という言葉です。おじいさん（勝太郎）は、道端に落ちている十円玉を例えて話したのですが、創業時の苦労を思い出しながらの言葉だったのでしょうか。

その時、私はまだ子どもであったため、単純に「小さなものでも集めれば大きなものになるのだ」という意味だと思つていましたが、やがてこの言葉はあらゆるコスト競争につながる大切な言葉だと気づきました。

家風というのはあまりにおこがましいのですが、今挙げた「小さな利益でも」という言葉は、私たちの暮らしに取り入れるべきものではないでしょうか。

これは「社風」とは次元の違うものですが、「地域とともに生きる」という考えがグループ全体のコンセプトになつていると思つています。グローバルな事業展開を推進しているとはいえ、グループの原点は福山市沼隈町常石にあります。

多くの社員はこの場所に仕事の場を持ち、この場所を住まいとして、子を育て、生活しています。もちろん私たちのグループとは関係なく、古くからここに住んでいる方々も数多くいらっしゃいます。

そんな地域で企業グループとして成長してきたことを忘れてはなりません。私たちは地域とともに育つてきたのです。ですから、地域の文化、教育、環境に何らかの形で関わる義



フィリピンにTHIを設立（1994年）

礼節を重んじる神勝寺の精神

神原 治

社風について 思うこと

今から50年も前のことですが、神原汽船、常石造船の社風は「一つの大きな家族」というものでした。家長は私の父である神原秀夫社長です。家長の決断は、すべからく「善」であり、全社一丸となつてこれを実行、実現すべき事柄でした。ただし、秀夫社長は他の人の意見を実際に聞く、理解することができる人で、皆が意見を出し合い、また反対意見であつても堂々と展開することができる環境がありました。

時代の変化、事業内容の多様化など、背景は大きく様変わりしたとはいえ、今でもこうした環境（社風）はグループ各社に残っているのではないかと思いたいのです。

神勝寺の精神と ビジネスマン

もう一つ「社風」として残していくものに「神勝寺の精神」というものがあります。それは具体的には「常に礼節を重んじ、茶の心（おもてなし）を持ち、豊かな心、生活と文化を高める」という思いをすべ

ての従業員が持つているグループであることです。もちろん、これは精神として持ち合わせることです。

大きなファミリーへ 小さなファミリーへ

かつての常石造船、神原汽船は、従業員も含めた巨大なファミリーでした。しかし、時代の変化がファミリーの概念を変えてしまいました。「ファミリー」とは「家庭」という極小単位の概念となってしまいました。だからこそ、一族三代にわたって集うことができるのは、すばらしいことだと思います。そのよりどころとしての神勝寺は、とても大切なものです。

第3世代

Third Generation

質素と儉約の家風

人が集まる 家庭環境

「家庭のこと」というと、その昔、私のおじいさんである神原勝太郎の時代のことを思うのです。当時の神原家はとにかく人の集まる家で、海運や石炭関係などの仕事関連から、地域の有力者、個人的な相談事を持ち込む人など、夕刻にもなると多くの人々がやって来ました。時には大勢で、時には一対一で、笑顔で、深刻な顔で、おじいさんはそんな人たちと言葉を交わしていました。おばあさんはおばあさんで、来客に茶や茶菓子を出したり、時に

は食事を用意したり、忙しく立ち回っていました。

そんな家でしたから、「家庭」というよりも「人の集まる場所が私の家」という思いの方が強かつたような気がします。今の人たちからすれば、家族も子どもも「気の休まる暇もない」と思うかもしれません、当時の神原の家はそれが当たり前のことだったのです。

活気に満ちた 家庭環境

次に叔父である神原秀夫の時代です。勝太郎はお酒を飲まない人で、甘い茶菓子で渋茶をすりながら、じつは大勢で、時には一対一で、おじいさんは

くり地道な事業計画を話す人でした。これに対しても秀夫叔父は豪放磊落、自宅に取引先の人や従業員を引き連れて来ては、毎日のように宴会を開いていました。そこではスケールの大きな話が飛び交い、夢のような計画を立案しては、それを次々に実現してしまうような人でしたから、家の

中も活気に満ちあふれていました。また、昼間にカミナリを落として叱責した若い従業員を招いては酒を勧め、食事をさせて慰めることもたびたびでした。たぶん「なぜ叱ったのか」を説明して、次には良い結果を見せてほしいというようなことを言い聞かせ、励ましていたのだと思います。

いつも大勢の人人が集まる神原家



神原 浩士



秀夫はよくお茶を点てて人をもてなしていました



留まついたら何も動かない

造船という 家業

海運と造船。神原の家はそれを家業として常石の地で生業を立ててきました。初代から数えて3世代目となる私は、ことに造船と深く関わってきました。造船という事業は好不況の波をまともに受けざるを得ない産業です。

個人の感想として社風のことを言わせてもらえば、宿命ともいいくべき

好不況の中、「貫して持ち続けて来たのは「とにかく頑張る」という精神風土だと思います。木造船の造船会社が、初めて建造した鉄鋼船はわずか3百トン強でした。これを砂浜に敷かれたレールに乗せた台車を滑らせて進水させたのです。昭和33年のことです。それからわずか数年で、数千トンクラスの船を自前の建造ドックで完成させました。そんなことがなぜ可能だったのか、それは従業員の頑張りです。

従業員だけではありません。叔父も幹部クラスの従業員も、全員が頑張りに頑張ったのです。

この精神風土はその後も受け継がれ、好不況に關係なく全員が頑張ることで、あらゆる状況を乗り越えて今日に至っているのです。

とにかく動くこと

沼隈半島の先端に位置する常石は僻地でした。そこで海運業を営んでいました。

「留まついたら何も動かない」の行動規範として、この言葉を忘れないでいてください。

初の鉄鋼船「美小丸」を建造していった1958年(昭和33年)頃の造船所のスケッチ



神原誠之

第4世代に聞く

社風や家風について、
第4世代の方々にもアンケートしました。

- ・地元地域を大切にす
る。
- ・従業員を大切にする。地域
とともに発展する。
- ・リスクがあつても大きなチャレ
ンジすることに肯定的。
- ・地元貢献に対し積極的。
運動会や祭りなどにも何らかの
形で関わっている。
- ・祖父(秀夫)も代表も私たち
第4世代も、和気あいあいと従
業員と飲食しているため、経営
者と従業員の距離が近い。風
通しの良い会社にしたいとの思
いが大きくなっています。

常石グループの 「社風」とは?

A Answer

Q Question

常石グループの「社風」とは?
地元地域を大切にす
る。

- ・従業員を大切にする。地域
とともに発展する。

- ・リスクがあつても大きなチャレ
ンジすることに肯定的。

- ・地元貢献に対し積極的。
運動会や祭りなどにも何らかの
形で関わっている。

- ・地元貢献に対し積極的。
運動会や祭りなどにも何らかの
形で関わっている。
- ・祖父(秀夫)も代表も私たち
第4世代も、和気あいあいと従
業員と飲食しているため、経営
者と従業員の距離が近い。風
通しの良い会社にしたいとの思
いが大きくなっています。

神原家に共通する 「家風」とは?

A Answer

Q Question

神原家に共通する
「家風」とは?
・第3世代は家父長
制、第4世代は多様。

- ・第3世代は家父長
制、第4世代は多様。

- ・従業員と頻繁に飲食するよ
うな社風のおかげで、「人が好
き」なファミリーであり、それ
が家風なのだと思う。ファミリー
が仲良くできるよう種まきをす
ることが、私たちの世代の務め。

- ・従業員と頻繁に飲食するよ
うな社風のおかげで、「人が好
き」なファミリーであり、それ
が家風なのだと思う。ファミリー
が仲良くできるよう種まきをす
ることが、私たちの世代の務め。

育ってきた。祖父の存命中は、毎週末いとこが集まって夕飯を一緒に食べていた。それがファミリー総会として受け継がれているのだろう。

常石という地域の イメージは?

A Answer

Q Question

常石という地域の
イメージは?
・造船の町。

- ・造船の町。
- ・地元常石の方の協力
のもと、事業が成り立っている。
- ・創業の地であり、今も住む
町として大事にしたい。地域貢
献もしたい。雇用を守り地域を
守る。それが常石そのものだ
と思う。

第6回 神原家 ファミリー総会

3月31日(土)、無明院においてファミリー総会を開催しました。

集合、読経



Mumyoin



スケジュール

The 6th
Kambara Family Meeting
Schedule
2018.03.31
Saturday

- | | |
|-------|-----------------------|
| 15:00 | 開会、読経 |
| 15:05 | 家長挨拶 |
| 15:10 | サマースクール報告 |
| 15:30 | 写経、作務
(無明院清掃、お墓清掃) |
| 17:30 | 夕食会(ベラビスタ) |
| 20:30 | 終宴 |



サマースクール報告



Mumyoin



写経、作務



Mumyoin



夕食会



BellaVista



今『舞台』に夢中です！



第5世代の方に、
自分が「今」好きなものを
自由に紹介してもらいます。

神原 明果さん



>>> haruka kambara

世界中が好きなものであふれている私ですが、その中でも特に好きなものはやはり「舞台」です。今、というよりもずっと、観るのも立つのも大好きです。

>>>

中学、高校は演劇部に所属し、上京してからは数え切れないほどの舞台を観てきました。

石原さとみさんなど今日本のトップを走っている女優さんの舞台から、小さい劇場でやるもの、ミュージカルや朗読劇まで、ジャンルは問わず何でも観ます。

>>>

そして、今年の4月、目標の一つであった舞台出演という夢を叶えることができました。

12歳から10年間あきらめずにやってきたことがやっと実を結んだ瞬間でした。

好きこそ物の上手なれ好きじゃなければ10年間も一つのことを続けることはできなかったと思います。

>>>

今回の舞台の稽古開始は本番の1か月半前。

1枚目の写真は顔合わせ、本読みの日に撮ったものです。



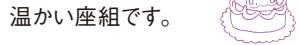
ここからほぼ毎日朝から夜遅くまでの稽古を重ねて、本番を迎えます。

今回いただいた役は私とは遠くかけ離れた役だったので、役作りのため実際に髪

を染めて日常生活を送ったり、悩み、苦しみ、挑戦の日々でした。



また、舞台初日が誕生日だったため、稽古場で誕生日を祝っていただきました！



温かい座組です。



そして迎えた舞台本番。



今回立たせていたいたのは、中野にある「ザ・ポケット」という劇場です。



ああ、わたし、本当に芝居が好きなんだなあと実感する日々でした。



たくさん的人が観に来てくれて、たくさんの贈り物をもらいました。

私の大好きな舞台。いつか神原家の皆さんにも観てもらえますように。



今までの人生で経験したことがないほど濃密な時間。女優を目指して上京し、やっと立てた初めての舞台。

心から尊敬できる先輩方の背中を見つめながら自分の不甲斐なさや悔しさに負けぬよう必死に食らいつく日々。

苦しい時間の方が多かった。だけど苦しければ苦しいほど、



>>> 次回は、イサラウタクン彬宏さんにリレーします。お楽しみに！



すべての若者に 教育を受ける機会を提供 グローバルに展開する

「神原育英会」の歴史

KAMBARA
IKUEIKAI



神原勝太郎肖像画。『神原勝太郎伝』より

郷土の優秀な 若者たちのために

常石グループの基礎を築いた神原勝太郎は、明治の頃、尋常小学校を3年（9歳）の途中で中退しています。その理由は「学業よりも当時の神原家の暮らしの方が大事だった」というものでした。しかし、成績も良かつた勝太郎にとって、学校をやめるという決断は、とても悔しいことだったといいます。

彼は、教育の大切さを、身をもって知っていたのです。そして思いました。郷土の若者たちに、昔の自分のように悲しく悔しい思いをさせたくない。この思いこそが、これから紹介する事業の始まりです。

戦後間もなく、六三制の義務教育制度が整つたとはいっても、海と山に囲まれて耕作地の少ない沿隈地方の若者たちは、どんなに優れた能力があり、また人一倍の向学心を持っていましたとしても、よほどの経済力がなければ、上級の学校（高校、大学）で学ぶなどということは、考えられないことでした。

郷土の若者のそんな境遇に接した神原勝太郎が設立した育英会の名称は「神原育英会」。学資の補助と運営の基礎となる資金は、勝太郎自身が所有していた鉄鋼船「第一天社丸」の運航利益をすべて投入することになりました。つまり、全額を勝太郎の私財で賄うということです。昭和29年1月のことでした。しかし育英資金提供の対象者は、沼隈郡そもそも当時の千年村の若者という、あくまでも地域を限定した小規模な育英会としてのスタートでした。

延べ6百人の 資金利用者

平成29年6月現在、神原育英会の学資資金を利用した対象者は、約6百人を数えるに至っています。そのものが豊かになつた平成以降は、高校生の利用者はほとんどなく、ほぼ全員が大学生となっています。

理系文系の区別なく高い教育を受け

原勝太郎は、彼らが教育を受けられる環境を提供したいと考えたのです。このような個人の体験と、それをもとにした地域への思いが「育英会」という若者の可能性を大きく広げる組織設立の背景になったのです。

船の運航利益を 全額投入

育英会という組織をざつくりと定義すると「主に経済的に恵まれない学生・生徒に学資を補助して勉学を助けるために設けられた団体」ということになります。

神原勝太郎が設立した育英会の名称は「神原育英会」。学資の補助と運営の基礎となる資金は、勝太郎自身が所有していた鉄鋼船「第一天社丸」の運航利

育英会の輪

当初は「郷土の若者のために」という目的と制度で運営していた神原育英会。やがて日本全土、アジア地域へと対象者を広げ、2007年に新たな活動として南米のパラグアイに神原育英会を設立して、同国の発展に寄与するとともに同国と日本の架け橋となるべき人材に、教育の機会と環境を提供する活動も展開しています。

当初は日系人子弟への奨学金給付、日系教育機関の運営援助などに役立つことになつていますが、将来は同国すべての学生・生徒に広げていくことを予定しています。また同国の隣国であり、常石グループとも深い関係のあるウルグアイでも、同様の育英会の設立を検討しています。

た彼らの活躍は、神原勝太郎をはじめ設立に力を注いだ人々、またその遺志を引き継いで現在の育英会を運営する理事、評議委員、スタッフにとって大きな喜びとなっています。

また対象者も、当初の千年村の若者から、備後地域、広島・岡山県、やがて全国の若者へと輪を広げていきました。さらに日本人以外にも、弥勒の里国際文化学院日本語学校の生徒（中国やベトナムの若者）も、この資金を利用して日本の教育を受ける機会を得ています。そして今では日本国内にとどまらず、すでに世界的な規模で広がっています。

また対象者も、当初の千年村の若者から、備後地域、広島・岡山県、やがて全国の若者へと輪を広げていきました。さらに日本人以外にも、弥勒の里国際文化学院日本語学校の生徒（中国やベトナムの若者）も、この資金を利用して日本の教育を受ける機会を得ています。そして今では日本国内にとどまらず、すでに世界的な規模で広がっています。

グローバルに広がる

当初は日系人子弟への奨学金給付、日系教育機関の運営援助などに役立つことになつていますが、将来は同国すべての学生・生徒に広げていくことを予定しています。また同国の隣国であり、常石グループとも深い関係のあるウルグアイでも、同様の育英会の設立を検討しています。

名前通りの大人になりたい

神原 知穂さん



昨年、成人を迎えることができました。過去を振り返ると、楽しいこと、辛いこと、悔しいことは数え切れないほどあるし、未来に私を待っている未知な思いや経験、責任は怖い。けれど、そのどれもが自分のユニークな「人生」という経験を形作っていく要素なのだと考えると、どんな日でも最大限に生きてい行きたいと思えます。

私は今まで、みんなに心配をかけてばかりでした。きっと今でもまだそうです。それに対して、私は後悔よりも感謝の気持で一杯です。私が自分で見つけ出す道を信じて応援してくれている皆さん、ありがとうございます。おかげでいろいろと迷ってきた私も、自分で自信と責任を持つて前へ進もうとする価値を学びました。

もちろん、先のことや自分の判断に不安な時もまだまだあります。どんな道を選ぼうとも「知穂」という名の通り、新しい知恵を集めながら常に自分を改善し続け、稻穂のようにもらってきた分、人に返せる大人を目指すことに——それが子どもの自分から大人の自分への願いです。

成人おめでとうございます

ハタチの感想

藤原 琢菜さん



今年3月に、無事成人を迎えることができました。まずはこの20年間、私にさまざまな経験をさせてくれた両親に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。京都の家を出て一人暮らしを始めてから2年が経ち、自分がどれだけ多くの人に支えられて生活していたのかを実感しています。

20歳になり、私が今まで思い描いていた姿とはほど遠い、今の自分に日々焦りを感じていますが、これから大学

を卒業し社会に出て生活をしていく中で、自分の「意思・考え」は大切にしていきたいと思っています。周りの人から言葉にただ流されるのではなく、その言葉にしっかりと耳を傾けつつも、その中で特に自分が何を思い、何を考えているのかをしっかりと持つて生活していくことです。そして、自分で自分で胸を張れるような、自分が正しいと信じた道を進んでいきたいと思います。

いつか自分で自分を誇り、褒めてあげられるような人間になることを目標に、また周りの方への感謝を忘れずに日々精進してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

母より

琢菜へ

成人おめでとう。

琢菜が大学に行つて初めてゆつくり帰省できたのが、今年の成人式でしたね。久しぶりに琢菜とゆっくり過ごすことができて、とても嬉しかったです。

ママにとって、琢菜が自分の思うままに人生を歩んでいくことが喜びです。でも、思うようにいかず、悩み苦しくなる時もあると思います。そんな時は、いつでも連絡てきてね。琢菜に会いに行くよ。

これからも、素敵な笑顔の琢菜でいてください。

ママより

もちろん、先のことや自分の判断に不安な時もまだまだあります。どんな道を選ぼうとも「知穂」という名の通り、新しい知恵を集めながら常に自分を改善し続け、稻穂のようにもらってきた分、人に返せる大人を目指すことに——それが子どもの自分から大人の自分への願いです。

開催日：10月6日(土)11時～(予定)

行事：大般若祈祷法要(無明院本堂)



ファミリー予定